

一般社団法人 山梨県理学療法士会会報誌

SUPPORTERS

サポーターズ

No.144 2015 春号

一般社団法人

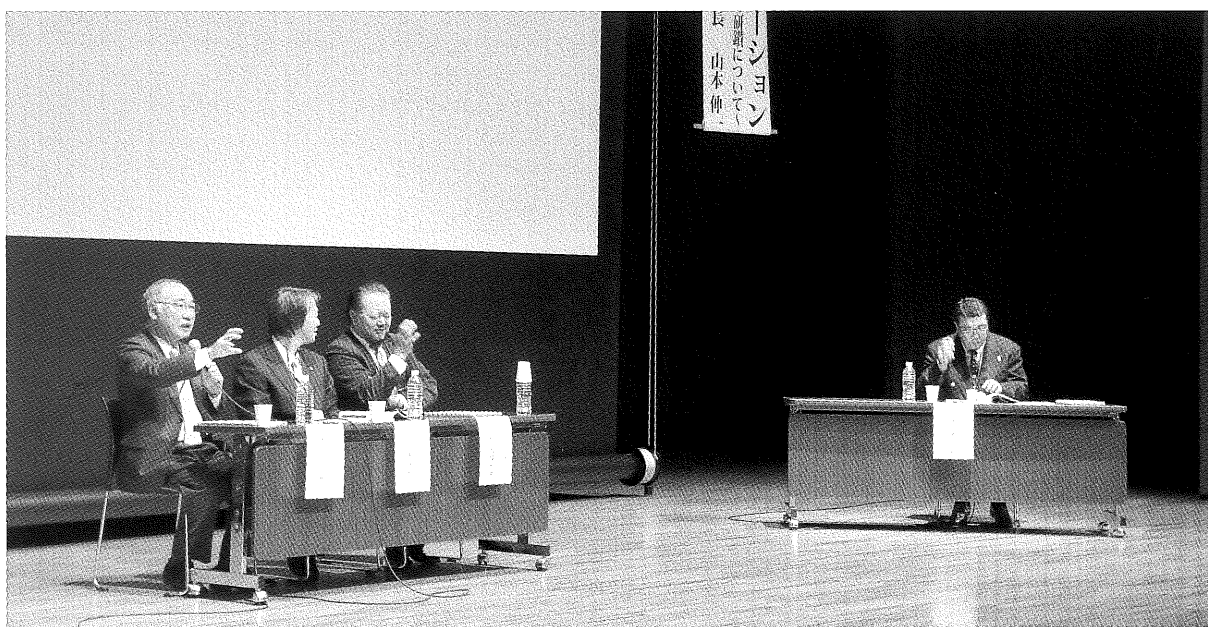
山梨県理学療法士会ホームページ <http://ypta.jp/>

会員数 766 名

施設数 120 (3月1日現在)

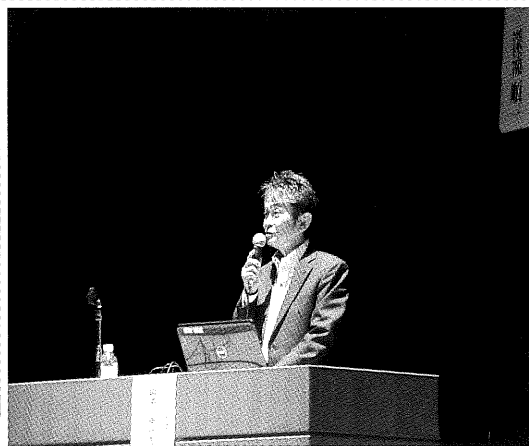
「第一回山梨県リハ専門職合同学術大会」

▶ シンポジウム



▲ 事前準備

大会長講演 山本先生 ▶



Contents

特集 第一回山梨県リハ専門職合同学術大会報告

第一回山梨県リハ専門職合同学術大会を終えて…2～3

各部活動報告…4～6

● スポーツPT部 ● 生涯学習部 ● 地域連携部

お知らせ…6～7

● 関東甲信越ブロック学会準備委員会

● 事務管理局

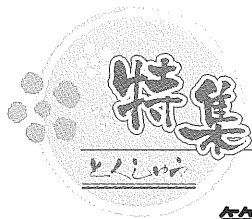
原稿募集…7

リレーエッセイ Part 26…8～9

編集後記…9

「supporters (サポーターズ)」とは・・・

我々理学療法士が社会に寄与していく職種であることを思い、「支える人」という意味の supporter に複数形の s を加え、supporters : 支える人たち(造語)の意味です。



「第一回山梨県リハ専門職合同学術大会」報告

第一回山梨県リハ専門職合同学術大会を終えて

一社) 山梨県理学療法士会 会長 小林 伸一

「実行委員会や発表、懇親会等を通して、各病院間の垣根が低くなり、顔の見える関係が出来ました。」

「担当患者さんが転院するとき、早速知り合いになれた先生に電話しました。患者さんに電話しておいたよ・・・と言うと、良かったよう安心したよ。」

大会期間中あるいは閉会后、何人もの先生方から同じようなことを聞きました。この言葉だけで大会は成功した、やってよかったと私は思っております。

三職種が三位一体となってはじめて良質で高質のサービスが提供でき、幅広い分野・幅広い方々の期待に応える事ができる・・・、それなら互いに取り組む事の可能な事業は、その垣根を越えて・・・と、これまで、訪問リハ協議会・災害対策準備委員会・地域支援等対策委員会を立ち上げ活動してきました。今回の学術大会も同様に、各士会が毎年開催している大会を三年に1回は合同でやりましょうということで、最初の大会を作業療法士会が事務局の任を受けていただき全国で初めて合同開催する事ができました。2日間でのべ1000人を越える参加者があり、大過なく終えることが出来ました。実行委員並びに参加された方々のご協力のお陰です。今学術大会が三士会の一層の連携を深め、三職種の技術・知識・資質の向上に繋がることを期待してやみません。

結びに、事務局の大任を負っていただきました作業療法士会並びに、各士会の実行委員の方々に對しまして、士会理事会を代表し衷心より感謝申し上げます。お疲れ様でした。

《雑感》

三協会のトップの先生方が揃い、それぞれの職種における「これからのリハビリテーション」のあり方を聞く事ができました。特に2025年をポイントに今後の数年間、そしてその先の活動への方向性を示唆していただけたと思います。私達は、日々刻々と変化する政治・経済あるいは社会保障・医療介護制度等々、私たちを取り

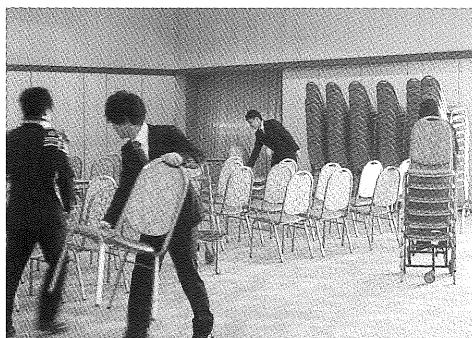


巻く諸々の情勢に対し、アンテナを高くして注視していく「眼」と、激変に対応できる、また結果を出せる「技術」・「知識」・「資質」の研鑽つまり「構え」と、将来に向けていかなる変化にも対応できる「備え」を持つ事が今後は特に重要となろう・・・。「眼」と「構え」と「備え」の三点がキーワードのように私は考えましたが・・・皆さんはどうでしょうか。

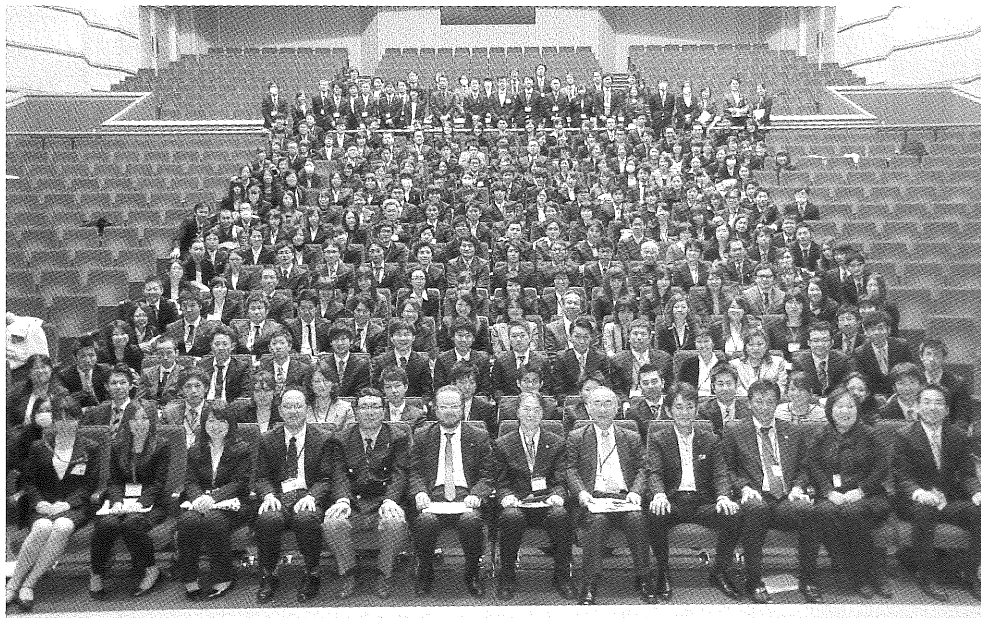
第一回山梨県リハ専門職合同学術大会を終えて

一社) 山梨県理学療法士会
遠藤 公士

平成26年12月6日(土)、7日(日)の2日間に渡り第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会が桃源文化会館にて開催されました。延べ人数1065人、実人数615人も多くの先生方に参加して頂き大盛況に終わる事ができました。これも、小林伸一先生、山本伸一先生(OT県士会長)、内山量史先生(ST県士会長)の働きかけにより日本初のPT、OT、STの合同学術大会が開催できる事になりました。合同学術大会の実行委員会は一昨年10月から開始し、PT、OT、STの代表者が約1年をかけて大会準備にあたりました。初めての合同学術大会ということで、実行委員1人1人が自分達で1から作り上げていくという機運が高まり、向上心を持った先生方と関わる貴重な機会を得る事ができました。何も無い所からのスタートで限られた時間ではありましたが、私は高村浩司運営局長の下で会場運営部長として、当日の受付係、会場係、駐車場係のとりまとめを行っていきました。当日は100名を超える運営委員の協力がありました。当日は細かい指示を出す事ができなかったため、マニュアルを作成しそれに沿った形で行動して頂く必要がありました。運営委員の皆様にはそれぞれの役目を見事に果たして頂き、大きなトラブルもなくスムーズに進行することができました。これも運営委員、その他スタッフのご協力があったからです。この場をお借りしてお礼申し上げます。



また、教育講演では‘姿勢と摂食嚥下障害について’という題目を頂き、私なりにPTという立場から摂食嚥下障害をどのように捉えるのか発表させて頂きました。OT、STの先生も90分枠の中で一緒に発表され、それぞれ違った視点から摂食嚥下障害を捉える事ができ、合同学術大会ならではの内容だったと思います。



2年後には第2回目の合同学術大会が開催されます。職種を超えた議論ができる貴重な機会です。他施設、他職種との交流を交えながら色々な知識を得ていきましょう。

各部 活動報告

社会局 スポーツPT部発

□「第57回スポーツ理学療法勉強会」報告

山梨大学医学部附属病院 小尾 伸二

WHOの提唱する「運動器の10年」世界運動に呼応し、日本では学童の運動器疾患の予防を目的に「スクールトレーナー」制度を推進し各地でモデル事業が展開されています。今回はその「スクールトレーナー」の現状と問題点を、小金井市の小中学校で実際に活動している東京都土会の前田長先生にお話し頂きました。講演ではPTが教育現場に入る法的・技能的・環境的な根拠と、運動器検診や研究授業など活動の実際を紹介頂き、PTの新しい分野として期待できる内容でした。しかし、PTの教育的問題、校医・養護教諭等との連携問題、金銭的・時間的問題なども多く、職域拡大にはまだ難しい状況にあることも分かりました。

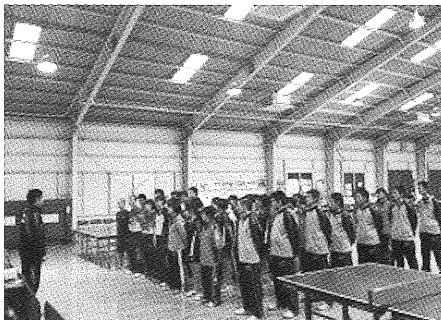
個人的には、学校や教育委員会から地域の病院やクリニックが依頼を受けてPTを派遣する体制を造るなどが現実的なのかとは思いましたが、いずれにせよ成長期の子供たちの運動器障害の予防・改善に貢献する「スクールトレーナー」は、PTの参入可能な有意義な制度と思われました。



□日本航空高校卓球部（男・女）に新規介入して

甲州リハビリテーション病院附属一宮診療所 通所リハビリ 佐野 史歩

平成26年度全国高校総体が山梨で行われ、各競技にPTが携わらせて頂いたことは記憶に新しいかと思えます。ボランティアスタッフの皆様やスポーツ部員の活躍があって、航空高校卓球部監督から「今後もぜひ来てほしい」とお声がかかり、昨年12月から行かせて頂くことになりました。選手たちの第一印象は、素直・一体感。特に驚いたことは、選手が来客をもてなすということです。椅子に座るように案内する、温まれるようにヒーターやコーヒーを出す・・・そんなことが皆でさりりとできてしまうな



んで言葉が出ませんでした。みんなで声を掛け合うことや考えて行動することは些細なことですがチームが強い秘訣であると感じます。近頃、「最近の若いもんは・・・」とよく耳にするとありますが、若いもんから勉強させてもらっています。これから海外遠征や全国大会など試合を控えていますのでその中で選手がより力を発揮できるように力添えができればな、と思っています。

●問い合わせ先：社会局スポーツPT部 小尾伸二

(山梨大学医学部附属病院リハビリテーション部内 TEL 055-273-9805)

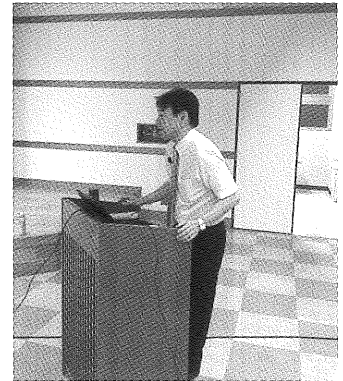
□ 新人教育プログラム活動報告

FILE ①

8月25日に新人教育プログラムが開催されました。講師は三科貴博先生と磯野賢先生で「人間関係及び接遇」、「協会組織と生涯学習システム」というテーマで行われました。

「人間関係及び接遇」 三科貴博先生

理学療法士にとって人間関係というものは必要不可欠なものです。そういった関係を築く上でも、言葉使いや態度は大変重要なものであると思われます。医療人であると同時に社会人である私達が、先輩や患者様とうまくコミュニケーションがとれない場合があります。今回、接遇というものを大変わかりやすくご講演して頂きました。社会人としての常識、敬語や身だしなみの講義を通して報告、連絡、相談の大切さを改めて教えて頂く貴重な機会となりました。



「協会組織と生涯学習システム」 磯野 賢先生

今回、協会が行っている生涯学習というシステムは重要なことであることを学びました。新人教育プログラムを修了することで、それぞれ専門分野に向かい幅広い教育システムを学べる事がわかりました。このようなシステムにより理学療法士がより深く知識を養う場になっていることを実感いたしました。私自身も新人教育プログラムが修了した時点で幅広い分野で知識や技術を学びたいと思いました。

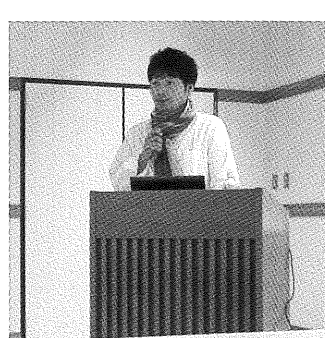


山梨リハビリテーション病院 室谷 匡紀

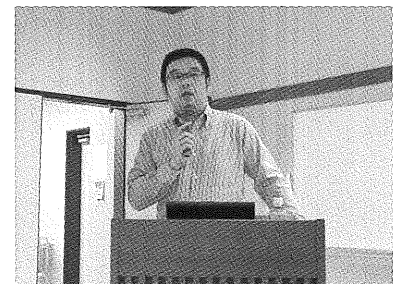
□ 新人教育プログラム活動報告

FILE ②

10月29日に「理学療法と倫理」、「国際社会と理学療法」について、石和温泉病院の青柳彰浩先生と山梨リハビリテーション病院の北山哲也先生に講義して頂きました。「理学療法と倫理」では専門職として求められる基本姿勢や、理学療法士として仕事をする際の個人情報の保護・インフォームドコンセントについて改めて重要性を認識しました。「国際社会と理学療法」



では、北山先生の海外での体験談や、JICAの海外ボランティア活動の内容などをわかりやすく説明して頂きました。また日本の理学療法士の職域が企業の社員に対する腰痛予防など、健康増進の分野にも活躍の場が広がる可能性があるとお話も頂き、より一層理学療法士としての専門性が発揮できる社会になっていく期待を持ってました。理学療法士の活躍の場が広がった時に必要とされる理学療法士になるため、今後も日々知識・技術の向上に努めたいと思います。



山梨リハビリテーション病院 樋口 康平

□ 第14回地域理学療法研修会を終えて

平成27年1月24日(土)14時30分より山梨大学医学部キャンパス臨床講義棟大講義室で第14回地域理学療法研修会を開催しました。

今回の研修では講師に医療法人池慶会 池端病院理事長・院長 池端幸彦先生をお迎えし、「地域包括ケア推進に向けた医療・介護連携とリハビリテーション」をテーマに講義していただきました。

参加者人数は理学療法士122名、作業療法士8名、言語聴覚士4名、その他7名の計141名の方に参加していただきました。

講義では実例なども含めながら、高齢者医療に関する現状や地域包括ケアシステムに対してどう理学療法士等が関わっていくべきなのか、今後の医療・介護制度の変化していく流れなどわかりやすく講義を行っていただき充実した3時間を過ごすことができました。

今回の研修を通じて高齢者等が入院し、在宅(地域)復帰までの時間が今まで以上に短くなっていく事を実感し、日々の理学療法を実施するなかで他職種の方々と協力し、入院早期に具体的な方向性を立ち進めていく事が大切だと感じました。

文責：恵信りほく病院 横内 香織

- 問い合わせ先：福祉厚生局地域連携部 三枝直人
(巨摩共立病院リハビリテーション科内 TEL 055-283-3131)

お知らせ

第34回 関東甲信越ブロック理学療法士学会

テーマ

「今、歩むべき道」

～生活を見据えた理学療法～

○会期 平成27年9月12日(土)

～13日(日)

○会場 アピオ甲府

○学会長 高村 浩司 (健康科学大学)

○準備委員長 山田 洋二 (甲府共立病院)



締め切りまで約1ヶ月を切りました。演題をご準備下さい！
地元、山梨からのポスター発表・口述発表をお待ちしております！

演題登録期間は平成27年3月下旬～4月末を予定

事務局より

慶弔申請の窓口は事務局です

- 詳しくは、士会ホームページの「慶弔についてのご連絡」をご確認ください。
- 公益社団法人日本理学療法士協会
弔事への対応ならびに見舞金の支給に関する規定について
協会会員に弔事および被災があったときの弔意行動および見舞金について定めた規定があります。詳細は県士会ホームページをご覧ください。

入会申請について

新人職員の皆様、入会申請はお済みでしょうか？ もし協会からの刊行物が届いていない場合、入会手続きがなされていない可能性があります。是非、ご確認ください。

財務部より 会費納入ご協力ありがとうございます。

会費未納の会員の方々にお知らせ申し上げます。再度、確認のご連絡をさせていただく場合がございます。予めご了承ください。

休会規定について

- 休会期間は1年単位となります。(4月1日から翌年3月31日)
年度途中の休会も終期は3月31日となります。
- 休会満了までに、復会・休会継続(更新)・退会の手続きが必要です。
満了時まで手続きがない場合は、規定により退会となります。
再度入会を希望する場合は、入会手続き及び入会金が必要となり、新人教育プログラムの再履修が必要となります。
尚、「休会継続」の手続き受付期間は、1月1日～3月31日とさせていただきます。
- 休会中に改姓・連絡先の自宅住所が変更になった場合は、マイページより異動申請にてお手続きください。
- 休暇中の研修会等への参加資格はなくなります。
* インターネットからの手続きができない場合は、日本理学療法士協会へご連絡ください。

● 問い合わせ先：事務局 藤田 yamanashi.pt.jimu@gmail.com

原稿を募集しています

会報部では会員の声を少しでも多く取り入れたいと考えております。テーマ等は自由です。

注意

内容の規定はありませんが、個人・団体等の中傷あるいはこれに準ずるものは不可。

1. 研修会・勉強会等の開催案内・報告内容など

2. 各種お知らせ事項など 3. 体験記など 4. その他

※第145号発行は、
8月上旬を予定しています。

原稿の締め切りは、

7月上旬です。

● 問い合わせ先：広報局 会報部 菊池 悟

一宮温泉病院 いちのみや訪問看護ステーション

TEL 0553-20-5255 E-mail:kikuchisatoru560905@yahoo.co.jp

リレーエッセイ ～途絶えることのない バトンを君に～

『リレーエッセイ』とは・・・

士会員を対象に、身近な出来事・お国自慢・今はまっていること・病院紹介など、何でもよい(ただし、誹謗や中傷の内容は除外します)ので400字程度で執筆していただき掲載していく企画です。

今までの Supporters にあった「会員のひろば」と違い、会員同士の輪を広げるといって、執筆された方が次の執筆者を決めて、紹介していただくという点です。無理やり書いていただくわけではなく、執筆者同士の繋がりを大切にしていきたいと考えていますので、依頼を受けた方は快く執筆していただけたらと思います。

Part26-1

恵信りほく病院 横内香織

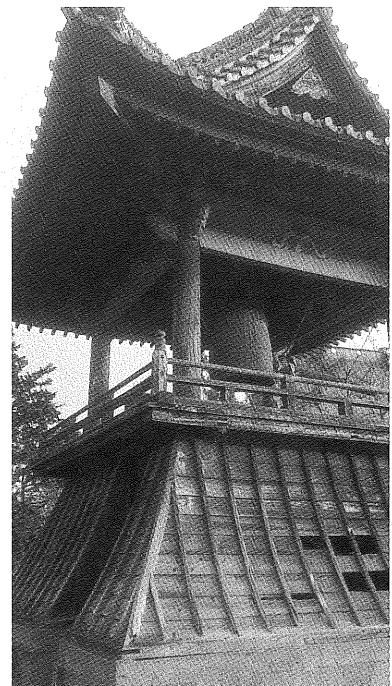
湯村温泉病院、平川由美先生よりご紹介いただいた、「恵信りほく病院」

の横内香織です。昨年11月に「りほく病院」から名称が変更になりました。

この文面を考えているのが1月なので年末の出来事をお話しします。年末、自宅の近くにあるお寺では毎年一般の方に「除夜の鐘」を撞かせてくれます。今回、私も人生で2回目の鐘つきに挑戦しました。前回は鐘を撞くのは上手くできましたが、その後階段を降りる際に鐘撞き堂の柱に頭をぶつけるという失敗をしてしまいました。「今回こそはしっかり行おう」と決意をして撞きましたが、力加減を失敗して2回も撞いてしまいました……。しかし、人より多くの煩惱を落とせたと前向きに考え、綺麗な心で新年を頑張っていきたいです。

次回は、『湯村温泉病院 深澤愛美先生』となります。

よろしくお願いたします。



Part26-2

一宮温泉病院 高嶋 悠

塩山市民病院の藤岡宏明先生からバトンを受け取りました高嶋 悠です。

故郷の新潟から山梨に来て、早一年が経とうとしています。多忙な毎日を送る最近、頻繁に学生時代の嫌な思い出を、夢で見るようになりました。

お世辞にも優等生とは言えなかった学生時代。学校の先生方、同級生には本当に迷惑や心配をかけました。そんな情けない過去を拭い去るように自分なりに必死に一年間働きました。

常に同級生と自分を比較し、劣等感を感じていた学生時代。PTになった今、競う対象はクラスメートから自分自身に何時しか変化していきました。

変化した明確な理由は分かりませんが、消し去りたい過去がきっと関係しているのだと勝手に思っています。

拭い去りたいと思っていた苦い経験があるからこそ、足先が前に向くと思います。これからも多くの情けない思い出と共に、少しずつ前進していこうと思います。



今回は、『甲府脳神経外科病院の宮澤 僚先生』です。よろしくお願い致します。

編集後記

木々の芽吹きに春を感じるこの頃ですが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。年度末となり慌ただしい時期ではございますが、本年度最終号の会報誌を無事にお届けすることができました。本号では、12月に開催されました、三士会合同の学術大会を特集として掲載致しました。思わぬ花冷えにお風邪など召されませんようくれぐれも会員の皆様はご自愛ください。

菊池 悟



- 発行 ● 一般社団法人 山梨県理学療法士会
- 代表 ● 小林 伸一
- 企画・校正 ● 菊池 悟 水上 卓 糸井 美里 矢崎 博美 深川 洋平
小尾 文香 野澤 和矢
- 編集・印刷 ● 有限会社 ナカガワ
- 会報部 ● 〒405-0077 山梨県笛吹市一宮町坪井 1754
いちのみや訪問看護ステーション TEL 0553-20-5255 / FAX 0553-20-5256
一宮温泉病院 TEL 0553-47-3131 / FAX 0553-47-3434
E-mail: kikuchisatoru560905@yahoo.co.jp